

令和5年11月1日
大阪公立大学医学部附属病院
研修医 柳原 彩乃

私は令和5年10月からの1ヶ月間、五戸総合病院で研修をさせていただきました。大阪公立大学医学部附属病院研修医の柳原彩乃と申します。

私は東北地方に今まで行ったことがなく、青森県はりんごが有名というイメージのまま研修がスタートしました。患者さんの話す言葉と自分が話す関西弁は大きく違ってコミュニケーションが上手く取れるのだろうか、また地域研修というものをあまりわかっていないまま研修ができるのだろうかなど幾つかの不安がありました。

五戸総合病院での研修の内容としては急性期から慢性期までの入院患者様を見たり、手術の執刀、検死、外来業務、訪問診療など私がこの1年半であまりやってこなかったことを行いました。初めは慣れるまでに時間がかかりましたが、院長先生ご指導のもと大変多くのことを教えていただきました。

まず印象に残った点としては、電子カルテと違い紙カルテであったことです。患者さんのことを紙カルテに記載することは初めてであり慣れないことでした。院長先生と共に内科・外科約40人の患者を見ましたが、研修医で治療方針の決定や患者のICをさせていただき疾患の勉強だけでなくコミュニケーションの取り方なども勉強することができました。入院中に胸腔穿刺、腹水穿刺、褥瘡処置などを安藤先生指導の下行いましたが、普段は上級医主体で行うことが多かった手技も多くさせて頂き非常に勉強になりました。入院患者だけでなく、外来業務も研修医の仕事の一環であり午前中だけで約30人もの患者様を診察しました。一人一人に向き合う一方で時間内にこなしていく要領も大切であることを学ぶことができました。最初はどのような疾患に対して内服しているかを見ただけで分からず調べる機会も多かったのですが、終盤は分かるようになり、また内服調整も行うことができました。次に印象に残った点としては、手術を執刀させて頂いた点です。局所麻酔から全身麻酔を伴う手術まで幅広く経験することができました。全身麻酔は麻酔科医がいない為、挿管や抜管も担当させて頂きました。局所麻酔では、実際に閉創までを1人で行い、その後の外来フォローも自分で行えたことはすごく自信に繋がりました。来年からは形成外科に進む予定であり今後の糧としていきたいと思えます。

最後になりますが今回の研修を滞りなく行えましたのも周りの方々のサポートのおかげであると実感しています。実際に関西弁で話をするとう理解してもらえない部分が多く、看護師さんに青森の方言に変えて話して頂く部分も多かったです。訪問診療もどのような事を行うかわかっておらずあたふたしていた部分も多かったです。看護師さんが丁寧に教えて下さりました。至らぬ部分も多かったです。最後まで滞りなく実習を行えましたこと心よりお礼申し上げます。五戸総合病院は少ない医師数で限られた資源の中で、地域の住民の方々から信頼されている病院というのを患者様との会話で実感しました。この一ヶ月の地域研修で青森の魅力についてたくさん気づくことができ、楽しい一ヶ月であったことは今後の医者人生でも忘れないと思えます。この地域研修を活かして今後も医師として成長できるよう頑張ります。